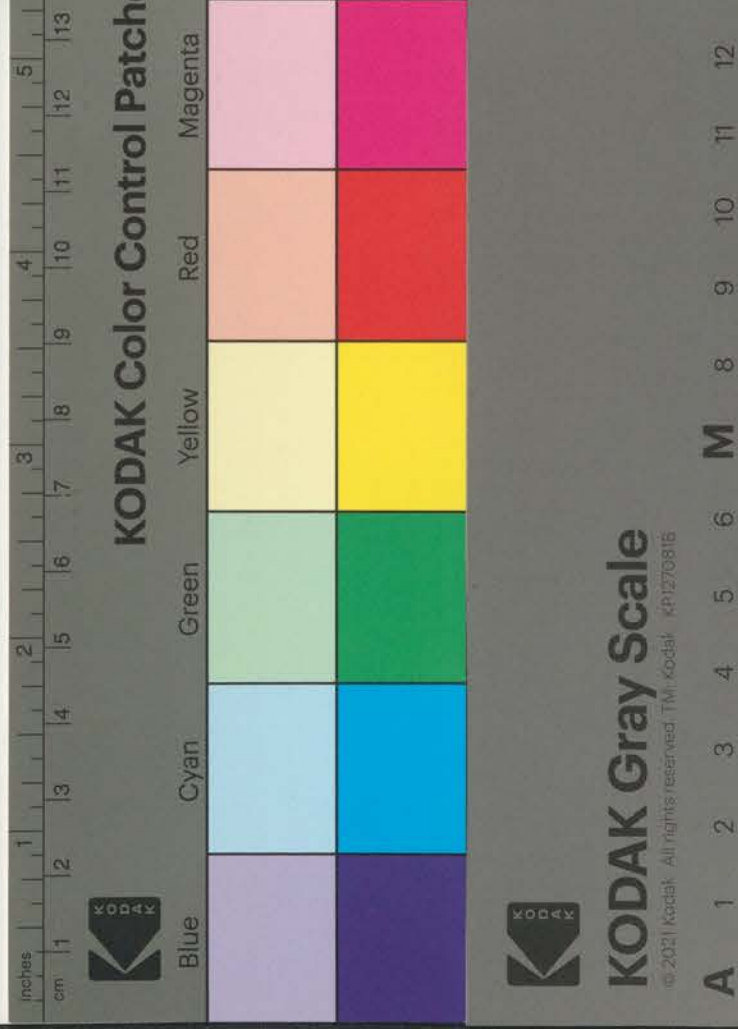


貳嶠神社寫真帖



目次

- 一、三峯神社一の鳥居
- 二、登龍橋
- 三、參道の並木
- 四、清きよ淨よめの瀧たき
- 五、隨神門
- 六、第一水舎
- 七、八棟の燈臺
- 八、神樂殿
- 九、三峯御本社
- 一〇、境内社
- 一一、御大典記念社務所
- 一二、參籠所と其構内
- 一三、三峯もみ
- 一四、御寶物繪馬古額
- 一五、三峯神社と奥宮の遠望
- 一六、妙法嶽



居鳥の一社神峯三 (1)



居鳥の一社神峯三 (1)



橋 龍 登

(2)



木並の道参



(4)

瀧^{たき} の 浄^め 清^き



門 神 隨



第一水舎

(6)



八棟の燈臺 (7)



(8)

神 樂 殿



(9)

三 峯 御 本 社



(10)

社 内 境



(11)

所務社念記典大御



(12)

參籠所と其構内



み も 峯 三

(13)



(14)

額古馬繪物寶御



(15)

望遠の宮奥と社神峯三



嶽 法 妙

説 明

一、三峯神社一の鳥居

位置 三峯山麓森林蓊鬱たる参道、大輪の里外れに在り。
扁額 「三峯神社」は小松宮彰仁親王の御親筆なり。

二、登龍橋（本社まで五十二町）

位置 登山口の荒川に架す。
延長 二十三間、橋下六十尺

三、参道の並木

表参道にして是より五十二丁の間老杉古檜亭々として兩側に列なり晝猶暗し、元祿年間の植樹なりと云ふ。

四、清淨瀧

位置 表参道二十一丁目の峽に懸る。
延長 十六尺
幅員 六尺

橋畔に「きよめの茶屋あり」喘ぎ／＼登山するもの此亭に少憩して清澄なる瀑泉に嗽がば忽ちにして疲勞を癒し冷氣衣襟に滿つべし。

數歩にして第三の鳥居（扁額は伏見宮貞愛親王の御染筆）に達す。

五、隨神門

表参道五十二丁の終止点四の鳥居の傍にあり建築壯麗鏤刻精妙なり。

元祿四年の再建にして高さ五丈三尺、天井には宋紫山筆の雲龍跳り其左右に天女奏樂の圖を配す。

六、第一水舎

三峯本社前燈下に在り間口一間三尺、奥行一間二尺、兩襖破風造にして花鳥唐獅子卷龍等精巧なる彫刻あり。

七、八棟の燈臺

第一水舎と相對し高さ十八尺、二層造りにして結構最優逸なり。

八、神樂殿

明治四十一年東京豎川講の寄進に係る八坪餘の千鳥破風造なり。

此處にて奏する御神樂の倭舞神子舞等は共に古雅優美にして本社獨特のものなり。

九、三峯御本社

秩父郡大瀧村森林鬱蒼たる三峰山に鎮座せる縣社にして伊弉諾、伊弉冊の二神を主とし尙他の神々を配祀し奉る。社は本殿幣殿拜殿より成り建坪五十二坪兩襖入母屋權現造にして本殿は寛文元年、幣殿、拜殿は寛政十年前後の再建にして精巧を極む拜殿内正面の大額は有栖川一品親王の御親筆なり。

三峯の稱は雲採、白岩、妙法の三嶺に擁せらるゝによりて起れり、妙法ヶ嶽の半腹は海拔三千六百尺なり。

一〇、境内社

御本殿左側の攝末社にして向つて左端は日本武神社次は東照宮なり寛水初年の再建に係り御神扉は古金地にして八重の御扉と稱し武田信玄の寄進せしものなりと傳ふ。御本殿の左右には攝末杜格總て二十四座を祀れり。

一一、御大典記念社務所

大正四年十一月十日 今上天皇御即位の大典を記念せんが爲め神社の傍に地をトし全年十二月十日工を起し八ヶ年を閲して竣工せるものにして間口十二間五尺餘奥行五間五尺、二階建總檜の大建築物なり。

社務所内に宏大なる客室八間あり、參拜するもの此神境に一泊すれば肅然として氣澄み心清く神々しさを體驗すべし。

一二、參籠所と其構内

右の二階建は參籠所にして上下十二室あり百七十餘年前の建築なり傍に高山植物一百餘種を栽培せる植物園あり

正面 社務所の後部

破風造の屋根 講堂

一三、三峯もみ

神社鐘樓の傍にあり一に裏白樅と稱す直徑二尺二寸高さ五十六尺實曆年間の栽植なりと云ふ。

由來此種の樅は本邦に在りては特に三峯地方にのみ生育するを以て學術上保存の必要あるものとす。

本縣指定の天然記念物なり。

一四、寶物

●繪馬古額（古銅打出し）

◎銅繪馬額面 堅一尺八寸—横二尺三寸

奉繪馬一疋 三峯山御寶前

伊奈半十郎内

河野八郎右衛門藤原藤重

寛永十二乙亥年三月吉日

◎銅繪馬丸額 徑二尺

奉寄進 三峯山御廣前

繪馬一疋

江戸住舟部清兵衛光重敬白

寛永十六己卯年二月吉日

◎銅繪馬額 堅二尺一寸—横三尺

奉寄進繪馬一疋 三峯山御寶前

江戸住澤田三吉藤原知重敬白

寛永二十年癸未二月寶珠日

一五、神社と奥宮遠望

山上の側候所より望める山容にして白岩、妙法の二岳延
蜷として聳え奥宮の神境其左端に突起せるを見るべし。

一六、妙法嶽

絶頂は三峯奥宮の鎮座せる地にして本社より約三十丁崖
嵬たる岩壁を攀じ或は崎嶇たる細徑を渡る其間鐵梯に頼
り又は鐵鎖を綱んで上るの箇所ありと雖何れも二三十尺
に過ぎざるを以て婦女子も登攀に難からず祠前の展望頗
る雄大なり。

大正十四年一月十日印刷

大正十四年一月十九日發行

（定價金參拾五錢）

埼玉縣秩父郡大瀧村

編輯兼 縣社三峯神社々務所
發行者

埼玉縣大里郡熊谷町本町

印刷人 小坂藤作

不許複製

埼玉縣大里郡熊谷町本町

印刷所 關東印刷所

埼玉県立浦和図書館



32016990